

『人間を撮る
ドキュメンタリーがうまれる瞬間』

平凡社

著者：池谷 薫

価格：1700円



日本エッセイストクラブ賞を昨年受賞した、堤未果氏の『ルポ 貧困大国アメリカ』（岩波新書）はマスコミでもよく取りあげられたが、今年の受賞作がここで紹介する池谷薫さんの『人間を撮る』である。

池谷さんは今では映画監督と紹介したほうがいいと思うが、この人が三十代の時に撮影し

た「黄土の民はいま」という番組（94年NHK放送）は、われわれ中国を研究する者の間では、知らぬ者はいないといつてよいほど有名な伝説のドキュメンタリーである。のっけから土地の境界線をめぐって争う農民同士のケンカのシーンで始まるこの番組は、それまでうかがい知ることのなかった中国農村の人々の欲望と葛藤、歴史に翻弄される苛酷な運命、それに抗してたたかき生き抜く大陸の人間力を画面から溢れかえらんばかりの迫力で伝え、観る者を圧倒した。

ただそれを撮ったのが池谷薫という人であることを私が知ったのは、池谷さんの初監督作品であるドキュメンタリー映画『延安の娘』が上映された2002年のことである。どうしてもこの人と話がしてみたくなった私は、ちよつと追っかけのまねのようなことをしたりして近づき、2004年12月には本学に招いて創立五十周年記念館で上映会を開いたりした。この時は学外からも多くの参加者があつてなかなかの盛況であつた。

何度か池谷さんを居酒屋に誘つて撮影秘話を聞かせてもらったことがあるが、まるで池谷さんを待ち受けていたかのように次々と起こるハプニングと、そこから展開する筋書きのないドラマの話は実にスリリングであつた。本書にもそういった話が数多く紹介されている。しかし、もともと質せばそれらはすべて池谷さんという撮る側と撮られる側の人間の情熱がぶつかり合つて生み出されたものなのだ。すなわちそれが本書の副題にもなつていて、ドキュメンタリーがうまれる瞬間である。なお、池谷さんの映画『延安の娘』と『蟻の兵隊』のDVDは本学の中央図書館に備えてある。この機会にぜひ鑑賞して欲しい。

学生スタッフ
コラム 4

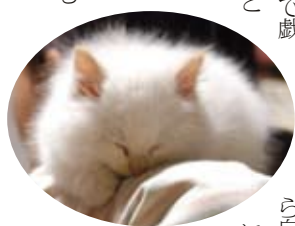
クリスマス、お正月、人と会つことの多い時期ですが、仲間との宴、家族との団らん、恋人との甘いひと時、皆さんはどのようなときに幸せだと感じますか？ 十人十色、百人百様で人それぞれだと思いますが、今回は、子猫を題材に、我が家のささやかな幸福をお伝えします。

居間の襖を開けると、懐かしい猫用トイレが置いてあります。「飼うことにしたの？」と問いかける私に、妻は、何も応えずただニコニコしています。「飼ってもいいけど、ちゃんと世話しろよ……」と言いかけて、妻の手元をみると、そこには、すでに、白い子猫が丸くなってくつろいでいます。少し前から庭先に姿を見せていた母猫が産み落とした子猫のようです。

夫婦そろって動物好きなのですが、ペットショップで買ってきて飼うようなことはせず、野良が居ついたら可愛がるのです。最初は、ペコと名づけた野良犬で、小学生の子どもの情操教育のために飼ひ、旅行にもペコを連れて車で出かけるなど、家族同然に扱いました。ペコが他界して8年になりますが、いまだに妻は、「ペコ……」と呼びかけることがあります。次に我が家に居ついたのは、生後1月足らずのシルバーとゴールドという子猫でした。2匹で戯れたり、追いかけてあつて、とてもほほえましい光景でしたが、シルバーは数日のうちに何者かに拉致されたのか、突然いなくなりました。ゴールドはペコに遊んでも

らったり、一緒に昼寝したり、親子のように暮らしていましたが、交通事故で他界しました。3度目はジョーという縞猫でした。スマートでセクシーな歩き方だったので、「お嬢」と呼んでいましたが、病院で去勢されたオス猫であることが判明し、いまさら名前を変えられないから、「お」を取って「ジョー」としました。ジョーが旅に出て、はや2年が経ちます。

今回は白い子猫なので、ミルクと名づけました。私がパソコンに向かっていると、背中を軽快に駆け上がり、私の肩で居眠りします。ミルクが可愛くてたまりません。縁があつて我が家に来たのでしょうから、ミルクには幸せになってほしい、今度は外に出さず、部屋の中だけで飼うことに決めました。自由を束縛して申し訳ない気持ちもありますが、交通事故も拉致も怖いし、自由に外に出せば近所に糞尿を与えるであろうし、田舎なら自由に伸び伸びと暮らせるだろうに……と思いつつ、現実を直視すればこの決断しかありませんでした。改めて、幸せとは何だろうと考えながら、ミルクの幸福を祈る私です。



(学生スタッフ：難波 剛章)

より良い広報誌を作成するために、みなさまからのご意見・ご要望をお待ちしております。
取り上げてほしい話題、質問したいことなど、何でも結構ですので、右記連絡先までお寄せください。

岡山大学広報誌

第53号
2009.12

発行／岡山大学総務・企画部総務課
〒700-8530 岡山市北区津島中1-1-1
TEL. (086) 251-7292 FAX. (086) 251-7294
E-mail. www-adm@adm.okayama-u.ac.jp
<http://www.okayama-u.ac.jp>

